

# 施策評価シート（平成27年度実績評価）

## ◎ 施策の基本情報

総合計画中期プラン	政策No.	2-2	政策名	生活基盤の充実	政策の 目指す姿	生活に必要な基盤が整い、 快適に暮らしています	施策 主管課	下水道課	施策主管 課長名	佐藤 基
	施策No.	6	施策名	汚水の適切な処理	施策の 目指す姿	下水利用環境が整っていま す	関係課名	生活環境課		
	現状と課題	・全市民のうち、汚水処理施設を利用できる状態にある市民の割合を示す汚水処理人口普及率は、平成25年度末で87.6%となっています。 ・汚水処理施設を利用できる状態にある市民のうち、実際に接続して利用している市民の割合を示す水洗化率は平成25年度末で82.6%となっており、15,000人余りの市民が下水道に接続していない状況となっています。								

### 1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

中期プランの「施策の方向」に掲げた次の項目を着実に実行し、汚水処理施設の整備、機能維持及び水洗化の推進を図っている。

- (1) 汚水処理施設の整備と機能維持
- ・公共下水道の整備、維持管理
  - ・農業集落排水施設などの改修更新、維持管理
- (2) 水洗化の推進
- ・戸別浄化槽の設置、維持管理
  - ・汚水処理施設への接続に係る補助金交付、融資あっせん、利子補給
  - ・未接続者への働きかけ

### 2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
汚水処理人口普及率	下水処理設備の整備状況を 示す指標	普及率＝整備区域内 人口／市全人口	%	目標値				88.4	89.3	90.2
				実績値	85.2	85.8	87.6	88.0	88.7	
水洗化率	下水処理設備への接続 状況を示す指標	水洗化率＝汚水処理 施設を利用している人 口／整備済区域内人 口	%	目標値				83.9	85.3	86.7
				実績値	80.5	82.3	82.6	84.1	84.9	
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

### 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■ 成果指標「汚水処理人口普及率」・・・【達成度 b】 人口減少が進んでいることも影響しているが、主に予定より整備区域が減少したことによる。</p> <p>■ 成果指標「水洗化率」・・・【達成度 b】 公共下水道事業水洗化率82.4%(前年比0.8ポイント増)、農業集落排水事業水洗化率83.96%(前年比1.3ポイント増)、浄化槽設置人口前年比208人減となり、全体的水洗化率は84.9%(前年度比0.8ポイント増)となった。また、公共下水道事業整備済区域が拡大しており整備済区域内人口が前年比262人増、農業集落排水事業整備済区域内人口が173人の減となっており、総体的に指標実績値が目標を下回った要因である。</p>

#### 4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1-1	水洗化促進事業	下水道課	B	B
	公共下水道の水洗化促進のため、個人が行う工事について一定の基準に基づく補助(新規融資斡旋・利子補給補助18件、私設污水管設置補助11件、低地対策ポンプ設置補助1件)			
1-2	水洗化促進事業	下水道課	B	B
	農集・浄化槽の水洗化促進のため、個人が行う工事について一定の基準に基づく補助(融資斡旋・利子補給補助4件、浄化槽放流管整備事業補助2件)			
2	公共下水道事業	下水道課	A	B
	公共下水道事業の推進(下水道管渠工事9km・管渠詳細設計19件)			
3	農業集落排水事業	下水道課	A	B
	農業集落排水施設整備との長寿命化事業の推進(公共汚水樹取付工事12件・老朽施設の機能強化工事2件)			
4	浄化槽事業	下水道課	A	C
	浄化槽の整備促進(浄化槽事業の周知広報活動・市設置型戸別浄化槽事業67基・浄化槽設置事業補助2基)			
5	し尿処理事業	生活環境課	A	-
	し尿汲取り業務及び汲取り手数料の収入事務の委託(汲取り量 22,013kℓ)			

#### 5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

- ・水洗化促進事業については、汚水衛生処理率が77.0%と全国の84.5%を下回っていることから、説明会開催など助成制度の周知に向けて進める必要がある。
- ・公共下水道事業については、中心市街地から周辺地域の整備に移行してきたことから、今後の整備にあたっては、経済性や高齢者住宅など地域事情を考慮して整備を進める必要がある。
- ・浄化槽事業については、住民ニーズに対応した整備方針を検討する必要がある。

(新たに取り組むべき事業はないか)

- ・適切な資産管理と汚水処理施設の老朽化への対応を行うとともに効率的な下水道運営を行うため、順次公営企業会計への移行を進める必要がある。

#### 6 施策の総合的な評価

(課題)

- ・公共下水道事業は中心市街地から周辺地域の整備へと移行してきたが、今後の公共下水道整備は家屋が点在する地域が中心となることから、経済性や効率性、地域事情等を考慮したうえで再検討する必要がある。
- ・水洗化促進のための支援制度の周知を図り、水洗化率の早期向上に努める必要がある。
- ・汚水処理施設(集合処理施設)の老朽化が年々進んでいるため、長寿命化対策を進め効率的な管理運営を進める必要がある。
- ・資産管理と効率的な下水道運営を行うため公営企業会計の手法を取り入れる必要がある。

(今後の方向性)

- ・集合処理区域と個別処理区域の再編を行うとともに、個別処理区域における浄化槽整備にあたっては、早期の水洗化率向上に向けて市設置型整備と個人設置型整備について検討を進めます。
- ・水洗化促進のため、助成制度の周知を図り、より効果的に進めます。
- ・汚水処理施設の効率的で効果的な運営を図るため、施設の長寿命化対策を進めます。
- ・公営企業会計への移行について調査を行い、下水道事業会計に続き順次移行を進めます。